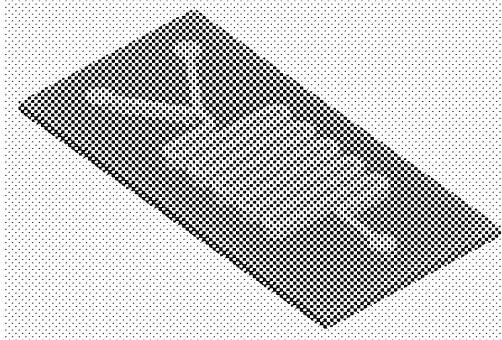


富士ダイスは、マイクロ流路を用いた医療用分析デバイス向けのガラス成形金型の提案を始めた。超硬合金の直彫り微細加工技術と、ガラスに近い熱膨張係数を持つ金属材料を採用し、高精度かつ製造時に離型しやすいのが特徴。同社ではエッチング加工と比べても精度を期待できるとしており、医療機器市場での新規顧客拡大を目指す。

マイクロ流路活用

医療用分析デバイス向け



1）、流路断面の形状精度5 μm を実現できる。また平板上に微細

な溝みを施したマイクロウェルプレートの金型の加工も可能。一方、ガラスは高温で成形するため、金型のコア材料との熱膨張係数差で冷却時の割れや金型から取り外せないなどの問題が発生していた。同社は特殊な分析デバイスは、ガラスなどの材料上に形成した微細な流路を利

用して分析などを行なう。臨床現場即時検査（POCT）や血液検査など医療や化学分野で普及が進む。富士ダイスでは流路配列のピッチ精度1 μm （マイクロは100万分の1）、流路断面の形状精度5 μm を実現できる。また平板上に微細

な溝みを施したマイクロウェルプレートの金型の加工も可能。一方、ガラスは高温で成形するため、金型のコア材料との熱膨張係数差で冷却時の割れや金型から取り外せないなどの問題が発生していった。同社は特殊な分析デバイスは、ガラスなどの材料上に形成した微細な流路を利

用して分析などを行なう。臨床現場即時検査（POCT）や血液検査など医療や化学分野で普及が進む。富士ダイスでは流路配列のピッ

離型容易なガラス成形金型

富士ダイス

用分析デバイス向けのガラス成形金型の提案を始めた。超硬合金の直彫り微細加工技術と、ガラスに近い熱膨張係数を持つ金属材料を採用し、高精度かつ製造時に離型しやすいのが特徴。同社ではエッチング加工と比べても精度を期待できるとしており、医療機器市場での新規顧客拡大を目指す。

用分析デバイス向けのガラス成形金型の提案を始めた。超硬合金の直彫り微細加工技術と、ガラスに近い熱膨張係数を持つ金属材料を採用し、高精度かつ製造時に離型しやすいのが特徴。同社ではエッ